



# 恒川 NEWS

ゴング ニュース



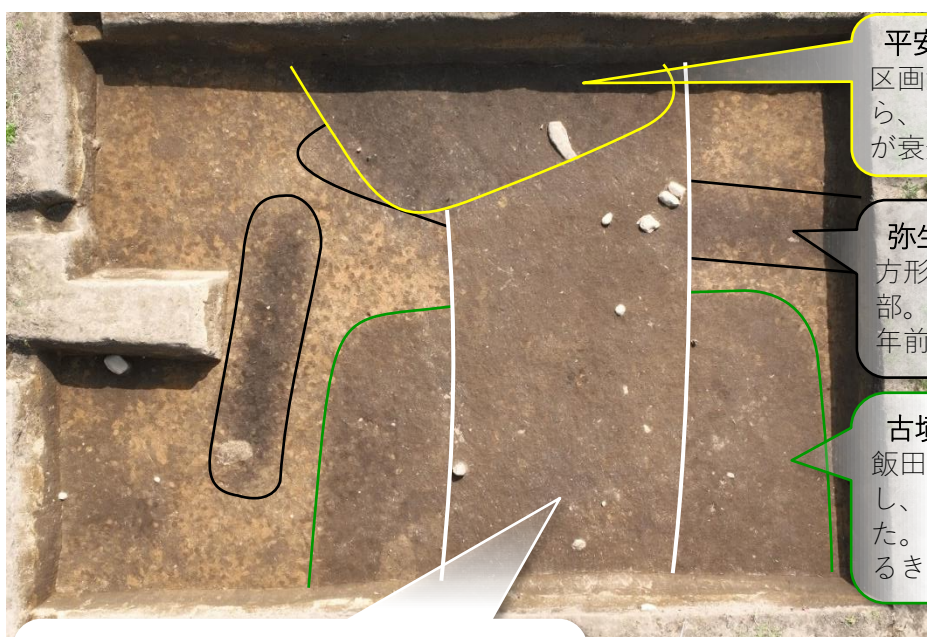
## 令和4年度発掘調査が終了しました！

令和4年度の範囲確認調査（112次調査・115次調査）は、令和5年3月末に終了しました。2月26日（日）には現地見学会を行い、県の内外から約100名の方に見ていただきました。令和4年度で史跡公園整備のための発掘調査は一段落し、今後は調査の成果をまとめる作業を行います。その成果を基に、正倉院エリアは恒川史跡公園として整備する予定です。

恒川史跡公園予定地での発掘調査では関係者の皆様、地域の皆様、大変お世話になりました。引き続きよろしくお願い致します。

### 112次・115次調査の主な成果

- 新たに正倉（掘立柱建物）が3棟見つかりました
- 新たに見つかった2棟の正倉はこれまで確認した正倉よりも大規模な正倉です
- 正倉院の南側には7棟の正倉が一直線に建ち並んでいることを確認しました
- 正倉（掘立柱建物009）は、掘立柱から礎石に建替えられていた可能性があります
- 正倉院の南西側を区画する溝の位置が確認しました
- この溝が埋まった後に建てられた家（竪穴建物）の年代から、正倉院は11世紀初頭には役割を終えていることが分かりました



平安時代（約1000年前）の家  
区画溝の上に掘られていることから、  
11世紀初頭までに伊那郡衙  
が衰退していたことを示す。

弥生時代（約2000年前）の墓  
方形周溝墓と呼ばれる墓の一  
部。座光寺のこの辺りは約2000  
年前から栄えた。

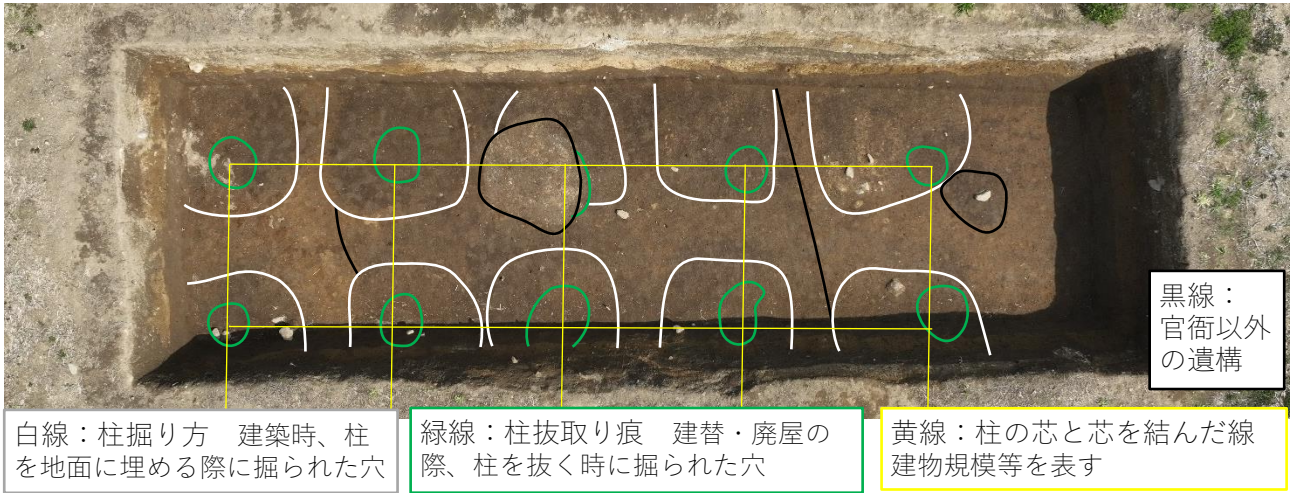
古墳時代（約1500年前）の家  
飯田は古墳時代から急速に発達  
し、多くの前方後円墳が造られ  
た。座光寺に伊那郡衙が設置され  
るきっかけとなった時代。

正倉院外周区画溝（約1200年前）  
幅約3mの堀で郡衙正倉院を囲っていた。  
これより左側が伊那郡衙の正倉院。

### 112次トレンチ2 遺構検出状況

この場所は、座光寺が栄えだした弥生時代から、  
飯田古墳群の時代、恒川官衙の時代とその終末ま  
でが一目で見える、まさに2000年浪漫の郷を象  
徴する調査区です。





白線：柱掘り方 建築時、柱を地面に埋める際に掘られた穴

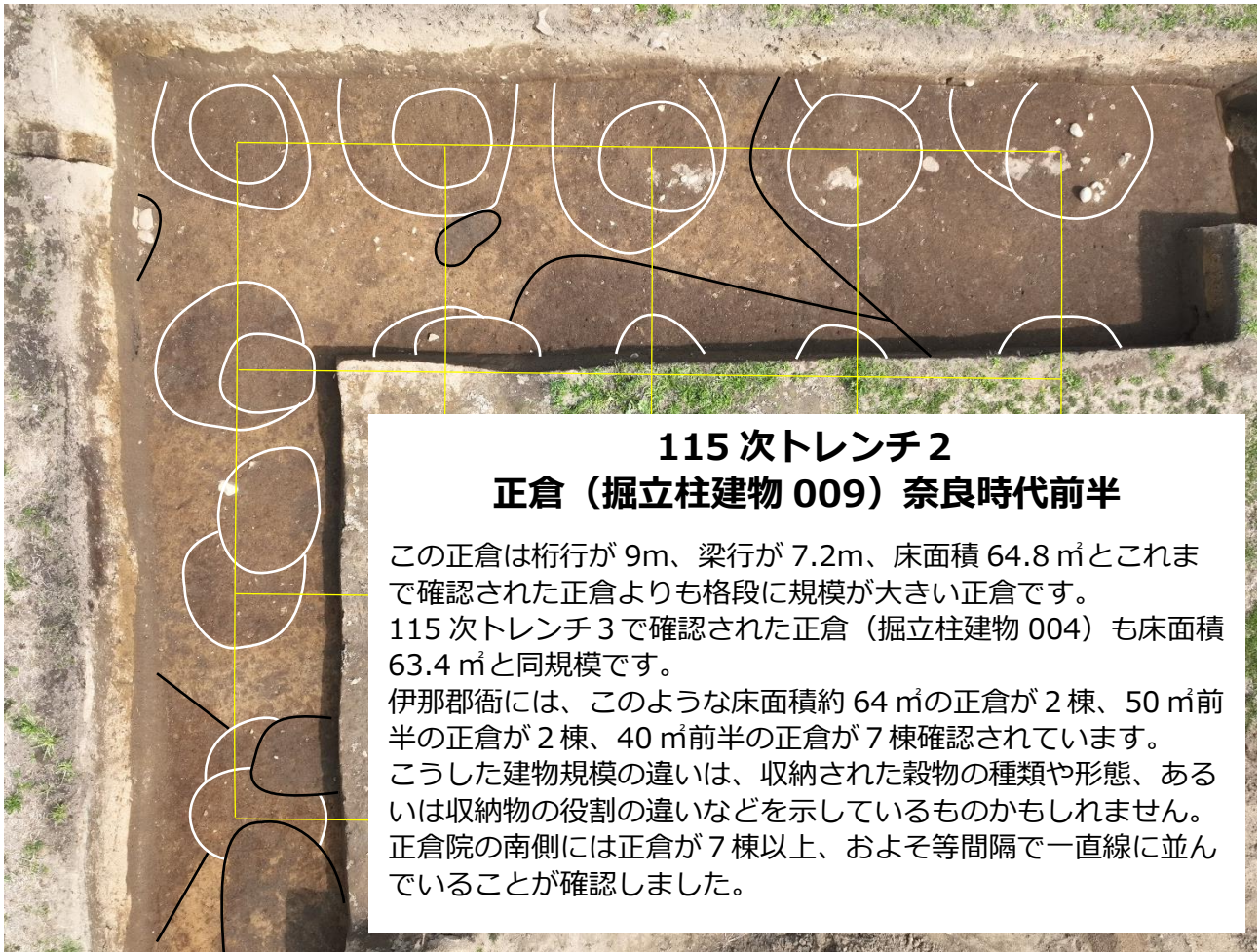
緑線：柱抜き取り痕 建替・廃屋の際、柱を抜く時に掘られた穴

黄線：柱の芯と芯を結んだ線 建物規模等を表す

黒線：官衙以外の遺構

### 115次トレンチ1 正倉（掘立柱建物001）奈良時代前半

建物の長軸（桁行）は柱4間（柱5本）で7.8m、短軸（梁行）は推定3間で5.3m、床面積41.2㎡と推定され、恒川官衙遺跡では一般的な規模の正倉です。



### 115次トレンチ2 正倉（掘立柱建物009）奈良時代前半

この正倉は桁行が9m、梁行が7.2m、床面積64.8㎡とこれまで確認された正倉よりも格段に規模が大きい正倉です。115次トレンチ3で確認された正倉（掘立柱建物004）も床面積63.4㎡と同規模です。伊那郡衙には、このような床面積約64㎡の正倉が2棟、50㎡前半の正倉が2棟、40㎡前半の正倉が7棟確認されています。こうした建物規模の違いは、収納された穀物の種類や形態、あるいは収納物の役割の違いなどを示しているものかもしれません。正倉院の南側には正倉が7棟以上、およそ等間隔で一直線に並んでいることが確認しました。

## 史跡恒川官衙遺跡調査速報 34

令和5年4月14日発行

飯田市教育委員会 文化財保護活用課 文化財活用係  
 調査担当者：羽生俊郎 TEL：0265-53-3755  
 E-MAIL：bunkazai@city.iida.nagano.jp  
 HP：https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkazai

